



府庁周辺ランチタイムパレード「カジノはいらない」とアピール (5月23日)

「国会を私物化する安倍政権、その政権と一体となって悪政をすすめる維新政治を終わらせる共同のたたかいを、そして、カジノより福祉・医療・教育・防災の府政運営へ、私たちが世論と運動で後押しをしましょう」。

5月23日、府民要求連絡会が行った府議会開会日行動「ランチタイム集会」での菅義人大阪労連議長のおびかけです。

いまほど、国民の立場に立った政治が求められている時はありません。地方公務員の政治的中立性は「政治に関わらない」ということではありません。憲法を職場や地域のすみずみに行き渡らせることと、地域住民本位の行政を実現させるのは、私たち自治体・公共関係労働者です。職場で「生活改善のために」「住民の願いにこたえる行政へ」と、大阪の未来を語り、参議院選挙で政治を変える運動をすすめましょう。



府民要求連絡会のランチタイム集会 (大阪城公園)

大阪市対策連絡会議は大阪役所周辺をパレード

生活しやす政治を変えて 要求を実現しよう！

「堺の学童保育を良くしたい」とがんばる堺学保労の仲間



堺学童保育指導員労働組合(堺学保労)

執行委員長 谷口 文美さん(左)

書記長 石岡 裕司さん(右)



みんな違うのがあたり前

堺市の学童保育は、1966年に一部で公設公営ではじまりましたが、全校区には広がらず1982年度に廃止。翌1983年度から保護者・指導員が共同運営をしながら公営化の要求運動を続ける中、堺市が1997年度に公設民営「のびのびルーム」を全児童対策事業として開始。その後、学童保育事業として位置づけられ、2017年より3年契約の業務委託で運営がされています。様々な変遷の中で、子どもの権利をまんにたたかひ続けている堺学童保育指導員労働組合の谷口さんと石岡さんにお話を聞きました。

人員不足と大規模化が一番の問題です

社会的にも必要とされているにも関わらず、主任以外の指導員は時間給940円(大阪府の最賃は936円)、有資格でも990円では、募集しても人が来ません。処遇改善をしてほしいですが、予算は増えず、常に欠員のまま保育しています。また、国の基準では約40人の児童に対して指導員が2人配置となっていますが、40人ごとに部屋を確保しなければならぬ基準はなく、約200人に対して専用室2部屋だけのルームもあります。体も心もホッとさせたいおやつの中には、外にブルーシートを広げて人数を分け

子どもたち一人ひとりに向きあえる学童保育を実現したい

ている日もあります。安全最優先で管理的な保育になったり、一人ひとりの話を聞いてあげられない状況になっています。

保育で大切にしていること「違っていてもあたり前」を引き継いでいきたい

学童保育は生活とあそびが中心です。子どもたちが顔を寄せあって「何してあそぶ？」から始まる毎日や、あそびによって活躍する子が違う場面がみられると、指導員としてうれしいです。

一方で、「全員同じ」の強要は子どもも大人も楽しくないです。「違うことはあたり前」を子どもに保障し、一人ひとりが安心して過ごせる学童保育をめ

ざしています。指導員同士でも、全国や大阪での学童保育研究会への参加を呼びかけたり、組合主催の学習会を開催したりしています。

不当労働行為を許さないたたかひにご支援を

2017年度からはじめた3年契約の事業者選定は、事業者が変わる度に雇用や労働条件が変る可能性のある仕組みで、働く側の生活設計がたちません。また、儲け最優先の営利企業の運営では、公的な子どもの権利保障や子育て支援はできないと実感しています。

2年前に事業者が(公財)堺市教育スポーツ振興事業団から(株)CLCに替わった区では、労働条件などの詳細を求めた組合役員が採用されず、労働委員会へ不当労働行為の救済申立てをし、現在、中央労働委員会へ再申立て中です。

不当労働行為を許さないたたかひと、堺の学童保育をより良くするために、引き続き、みなさんの支援をお願いします。